

## 配信資料に関する技術情報（気象編）第47号

### －「週間天気予報解説資料」の配信開始、及び週間天気予報の改善について－

週間天気予報は、新聞、テレビ、ラジオで日々報道されるとともに、電話、ファックス、インターネット等様々なメディアで提供されており、必要性の高い気象情報として広く社会に浸透してきております。当庁では、数値予報技術等の高度化を進め、週間天気予報の一層の精度向上・内容の充実に努めています。その一つの取り組みとして、アンサンブル手法を導入した数値予報の技術開発を進め、現在、試験的な運用を行いその精度評価等を行っております。

一方、週間天気予報の後半における精度は前半に比べて低下しますが、このことについては、皆様にはかねてから解説等で一般への周知をお願いしているところです。このような精度に関する情報をより一層わかりやすく利用者に伝えていただくため、「週間天気予報解説資料」の配信開始と、週間天気予報や概況文に信頼度に関する情報を盛り込む改善を行います。

#### 1. 「週間天気予報解説資料」の配信開始

数値予報などの資料の解釈や予報の組み立てを支援し、各種メディアを通じて週間天気予報をより一層わかりやすく解説していただくため、「週間天気予報解説資料」の配信を開始します（別紙1）。

- ①配信開始日 平成11年4月28日（27日12UTC初期値の解説）から配信します。
- ②画種番号 311
- ③配信資料のヘッダー名等  
画種名 : シュウカンカイセツ  
ヘッダー名 : QYYA 96 RJTD YY1200 (YY: 数値予報資料の初期値の日)
- ④発表時間 1日1回、10時頃を目処に発表します
- ⑤配信方法 気象業務支援センター（東京）から、FAX図情報（アナログ、デジタル、新デジタル）で配信します。

#### 2. 週間天気予報の改善（信頼度に関する情報の活用）

週間天気予報の精度に関して数値予報などの支援資料に有効な情報が現れている場合には、週間天気予報や概況文の中に精度に関する記述を盛り込み情報の充実に図っていくこととします。例えば、天気変化のタイミングが多少ずれる可能性があるかと判断した場合には、その可能性をできる限り具体的にわかりやすく伝え、また予報精度が高いと判断した場合には、防災対策等を支援する情報となるよう、雨や冬型の強まり等に対し注意すべきタイミングや地域を伝えます（別紙2）

## &lt;サンプル&gt;

週間天気予報解説資料 1999年 4月18日 10時00分発表

気象庁予報部

予報期間 4月19日から 4月25日まで

## 1 向こう一週間の天気経過の概要

- ・ 期間の初めと期間の後半には全般に天気の崩れる日がある。
- ・ 期間の中頃には高気圧に覆われ晴れるところが多い。
- ・ 気温は、最高気温・最低気温ともに、全般におおむね平年並。

## 2 基本場

実況の平均場は日本谷傾向だが高度場は上がっている。後半は日本付近にリッジが残りやや東谷の予想。大陸東岸の110E付近はトラフ場となる。

## 3 数値予報資料等

## (1) 明後日予報について

- ・ 本日03時40分発表の短期予報解説資料参照
- ・ 500hPaのトラフはT=72にはほぼ東に抜け、日本付近は西～西北西流の場となる。低気圧も東経150度付近まで進んでやや発達。移動性の高気圧が日本海西部に進んでくる。RSMからGSMへのつながりもよく、特に修正点はない。
- ・ 東日本の南海上に弱い谷が残る可能性があるほか、北海道上空にも寒気が入る。これらの地方では弱い谷や寒気の影響を受けるところがある。

## (2) モデルについて

- ・ 22日頃までのGSMは日替わりも少なく比較的安定している。
- ・ 23日以降については、ここ数日のGSMは、ブロッキングがしやすい場を予想している。ブロッキングができるタイミングや場所がイニシャル毎に異なっており、地上の気圧場の予想も日替わりが大きい。本日のGSMは昨日のGSMよりもトラフ・リッジの動きが1日程度遅い予想となっている。

## (3) 週間解説予想図について (GSMからの修正など)

- ・ 前半22日くらいまでは予想も安定しており、ほぼGSM通りに考えた。
- ・ 後半は、ここ数日のGSMの傾向を採用し、日本付近にリッジを残して考える。ただし、昨日までの解説図も考慮し、GSMよりも進めている。
- ・ 後半は、本日の解説図よりも低気圧の動きが遅くなり、東・西日本ではぐずついた天候が長引く可能性がある。

## (4) 防災事項

- ・ 動きの遅い高気圧の縁辺を北上する暖湿流の影響で、23日以降西日本を中心として大雨の降りやすい場が続くおそれがある。

16日12UTC

イニシャル



17日12UTC

イニシャル



21日

22日

23日

24日

25日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

## 週間天気予報の精度に関する情報

週間天気予報の中の週間天気概況に、必要に応じて精度に関する具体的な記述を盛り込みます。例えば、顕著な気象現象の可能性や、発表予報とは異なる天気の可能性などを述べます。

いくつかの具体例を次に示します。

- ①精度が高いと判断される場合には、防災的な事項について、具体的に注意すべきタイミングや地域を示します。

表現例：「\*日頃、寒気が南下し、\*\*地方では大荒れの天気となりますので十分に注意してください。」

また、予報の確かさに応じて以下のような表現をします。

表現例：「期間の中頃、寒気が南下し、大荒れの天気となるおそれがありますので今後の予報等に注意してください。」

表現例：「今期間、寒気が南下して天気の荒れる可能性もありますので、今後の予報等に注意してください。」

- ②予報とは違う天気になる可能性のある場合には、そのことを以下のように示します。

表現例：「向こう一週間は、晴れの日が続く見込みです。ただし、\*日頃は、雨となる可能性も大きいので最新の予報をご利用ください。」

表現例：「\*日頃は、雨の降るところが多い見込みですが、雨の降り出しが一日程度早くなる可能性も大きいので最新の予報をご利用ください。」

平成11年4月19日  
気象庁予報部

## お 知 ら せ

～分布予報および時系列予報拡充の業務開始日について～  
(配信資料に関する技術情報(気象編)第36号(平成10.7.30)関連)

気象庁では、分布予報及び時系列予報の拡充として、平成11年6月より以下の改善を実施することをお伝えしておりました(詳細は「配信資料に関する技術情報(気象編)第36号(平成10年7月30日)」を参照願います)。

- 時系列予報の予報要素に、風向・風速を追加
- 18時発表の分布予報・時系列予報の予報時間を、30時間に延長(ただし、6時・12時発表の分布予報・時系列予報の予報時間は、従来どおり24時間)

この度、開始日時及びオンライン配信試験のスケジュールが決定しましたのでお知らせします。

### 1 開始日時

平成11年6月1日18時発表予報より

### 2 オンライン配信試験

開始に先立ち、下記のとおりオンライン配信試験を行います。

#### (1) 配信するデータ

以下の試験データを、気象業務支援センター経由でオンライン配信します。

- ア 18時発表の時系列予報(風向・風速を含む30時間予報のデータ)
- イ 18時発表の分布予報(30時間予報のデータ)

#### (2) 試験配信実施日時

5月18日及び5月25日の18時30分ごろに、全国の時系列予報・分布予報実施官署から上記試験データを発信します。またこの日時以外にも、5月13日以降、各気象官署において個別に試験発信を実施する場合があります。

#### (3) 試験配信の注意事項

- ア 試験配信で提供するのは、ダミーのデータです。実際の予報には使用しないよう注意願います。
- イ 通常の時系列予報・分布予報と区別するため、試験データは下表のとおりテストヘッダを用いて発信します。

表：試験データに使用するテストヘッダ

試験データ	テストヘッダ
分布予報・天気	KYAXii CCCC
分布予報・降水量	KYBXii CCCC
分布予報・気温	KYCXii CCCC
分布予報・最高最低気温	KYDXii CCCC
時系列予報	KYYY99 CCCC

ii：地方予報区ごとに異なる数字（通常の分布予報と同じ）

CCCC：発表官署名（通常の時系列予報と同じ）

### 3 備考

利用者各位において、ご自分のシステムが新しい分布予報・時系列予報のデータ形式に対応していることをご確認願います。

「配信資料に関する技術情報第36号」でお知らせしたとおり、分布予報及び時系列予報は、内容拡充後も従来と同じデータ種類コードで発信します。また、18時発表の天気分布報は、従前の24時間までの部分と6時間延長した部分の2通の電文に分割し、2通とも同一のデータ種類コードで発信します。利用者側のシステムによっては、プログラムの改修を行わなければ、時系列予報・分布予報を正常に受信できなくなる可能性があるのでご注意ください。